

作業療法士の休職・離職後の復職支援に関する調査研究

藤田さより 1) 飯田妙子 1)

1) 聖隷クリストファー大学

【はじめに】作業療法士の数は約 10 万人。年々増え続ける作業療法士の中には、様々な理由で離職や休職し、数年に亘り実践の現場を離れる作業療法士の数は決して少なくない。日本作業療法士協会の会員数の約 6 割を女性が占め、また 26～40 歳の年齢層が約 6 割を占めており、妊娠・出産・育児で休職・離職する会員も一定数報告されている。ストレス社会の中で厚生労働省の調査において 6 割弱の事業所でメンタルヘルスに問題を抱えている社員がいると回答しており、作業療法士もその例外ではないと考える。

そこで本研究において離職・休職後の復職にむけて作業療法士が抱える不安がどのようなものであるか？また復職にむけてどのような支援を求めているかを明らかにしたいと考えた。それらを明らかにすることで今後復職を望む作業療法士の復職支援システムの構築に繋げたい。

【研究目的及び方法】本研究の目的及び方法は、休職・離職の経験のある作業療法士に対し半構造化インタビューを実施し、休職・離職・復職に対する思いを明らかにすること、さらに同一法人で 10 年以上勤務する作業療法士に対し、半構造化インタビューを実施し、「就労継続の必要な要素」を明らかにすることの 2 点である。分析方法は、インタビュー内容をすべて逐語録に起こし、同質の内容毎に整理統合、カテゴリー化、質的記述的分析を行った。

【結果】今回、15 名の本学卒業の作業療法士に協力を得た。15 名のうち、10 年以上の同一法人勤務経験者が 13 名、休職経験者が 9 名であった（重複あり）。性別は男性 5 名、女性 10 名であり、精神・地域領域 5 名、高齢期領域 4 名、身体障害領域 6 名であった。分析の結果、「職務上のストレス要因」として「対人関係」、「後輩指導」、「対象者への十分な治療」、「他部署等との治療方針の違い」、「育児と仕事の両立」が述べられていた。「就労継続要因」では、「職員同士支え合える関係性」、「やりたい仕事ができること」、「モデルとなる先輩の存在」、「尊敬できる上司の存在」、「出産・育児のサポート体制が充実している」、「休みの取りやすさ」、「余暇・趣味を楽しむことができること」等であった。「復職にむけて期待する支援」では、「個人と就職先を理解し、マッチングしてくれる相談窓口」、「復職後仕事に慣れるまでの指導やサポート体制」が挙げられた。

【考察】今回の結果から、作業療法士が抱える就労上のストレス要因、就労を継続する上で重要な要素、復職に向けて必要な支援について把握することができた。今後今回の研究を基にさらに研究対象者数を拡大し、作業療法士が長く安心して働くための具体的な方策や復職支援システムの構築に向けて発展的な研究を継続したいと考える。

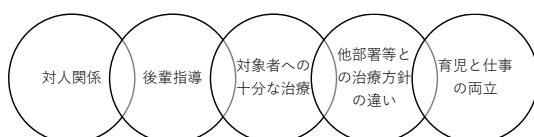


図1 職務上のストレス要因

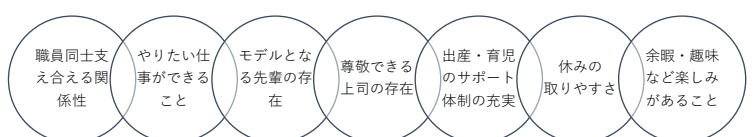


図2 就労継続要因